



二代目秩父橋と『あの花』巡礼

東日本建設業保証株式会社
建設産業図書館
江口知秀
Tomohide Eguchi

秩 父の小鹿野町からの帰り道、バスに揺られて西武秩父駅へと向かう。小鹿野町はバイクに人気があるらしく、たまに一団がドロドロと音を立てて通り過ぎるが、秩父の主要鉄道路線から外れているため山間の静かな町だ。ゆっくり散歩がしたくて訪れたのだが、思ったとおりの旅ができて気分がいい。しかし、まだ歩き足りないもので、どこかで降りようかと車窓を眺めていたら、美しいコンクリートアーチ橋が見えた。おそらく、いま渡っている秩父橋の旧橋で、土木遺産として保存されているのだろう。

早速、近くのバス停で降りると、不思議な光景に出くわした。高校生から大学生くらいの若者たちが三々五々と橋へ向かっていくのだ。いくつか地方の土木遺産を巡ってきたが、人などいたためしがないのに、周りに何もなない町外れで、しかも若者だけが集まってくるとは、いったいどうしたことなのか。

すると、「『あの花』じゃない？」と、同行者がつぶやいた。ああ、なるほど。どおりでコスプレもいる。秩父では『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』通称『あの花』というアニメで町おこしをしているのだ。平成二十三（二〇一一）年に深夜枠で放送されて人気を博したが、劇場版が昨年公開さ

れて再燃したらしい。

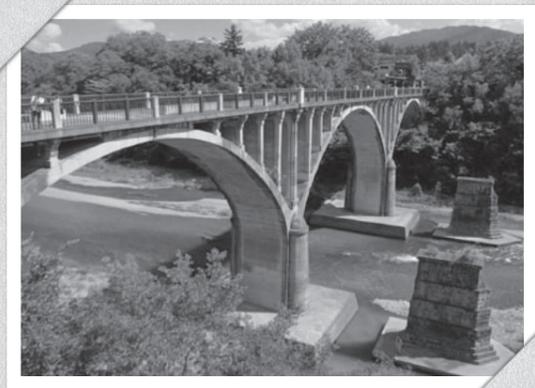
引きこもり気味の高校生が、事故で亡くなった幼馴染の少女を成仏させるため、かつての仲間たちと奔走するという切ない青春物語らしいが、リアルな秩父が舞台となっているため、この物語に涙した若者たちが、劇中に登場する秩父の各所を、めぐりめぐっているのだという。これを聖地巡礼という。

巡礼者たちと共に私たちが立っている旧秩父橋は、昭和六（一九三二）年に橋長一三四六メートルの三連鉄筋コンクリートアーチ橋として竣工した二代目に当たり、昭和六十年に現在の橋が完成すると引退して、今は人道橋となっている。ちなみに明治十八（一八八五）年に架けられた初代秩父橋は、二代目のすぐそばに切石積みみの橋脚のみが残る。

二代目秩父橋の上で『あの花』のワンシーンに想いを馳せている巡礼者たちは、女子やカップルが多く、広い層に支持されていることがわかる。最近、建設関連の雑誌で土木・建築のPRについて触れた記事を目にするが、アニメを活用するのは若い世代に土木・建築遺産をアピールする良い手段となるかもしれない。もっとも肝心の出来が悪ければ話にならないが、こうした若者たちの中には、アニメの舞台となった土木・建築遺産の美しさに振り向く者も

出てくるにちがいない。少なくとも、アニメの名場面とともに確かな記憶として残るだろう。

しかし、待てよ。私も巡礼者に間違えられていないだろうか。バスを降りてわき目もふらず橋へ直行したし、私の横でアニメ好きの同行者が喜んでいながら、なおさらありえる。いやいや、この歳でそれは恥ずかしい。「私は巡礼者ではない。私は巡礼者ではない」経文のように身の潔白を唱えなくなった。



二代目の秩父橋

[交通] 西武バス 秩父橋停留所より徒歩約3分